

JOCエリートアカデミーだより



【国民体育大会】

第72回国民体育大会が9月から10月にかけて愛媛県で開催され、JOCエリートアカデミーから6競技に18名が出場しました。

レスリングでは、8月の世界選手権48kg級で優勝した須崎さんが、1階級上の53kg級に出場し、見事優勝を果たしました。須崎さんは、昨年度に続いての連覇となります。榎君も、9月に行なわれたカデット世界選手権に続いて、少年男子58kg級で優勝を果たし、インターハイと合わせて国内主要大会での2冠達成となりました。

水泳(飛込)では、伊藤君も少年男子飛板飛込で優勝を果たしインターハイとの2冠を達成しました。

アーチェリーでは、中学3年の渡邊さんが、高校生を抑えて優勝を果たしました。少年女子の部で中学生の優勝は大会史上初であり、アーチェリー関係者にとって大きな衝撃となりました。

その他のアカデミー生の活躍も目立ち、出場したアカデミー生の半数以上が3位以内に入りました。アカデミー生は「JOCエリートアカデミー」や学校名で大会に出場することが殆どですが、国体では都道府県の代表として出場します。そのため、日頃は味わえないような雰囲気の中で競技をすることができ、貴重な経験になりました。

《主な成績》

◆レスリング

- ・少年男子58kg級 榎 流斗(東京都) 優勝
- ・女子53kg級 須崎 優衣(千葉県) 優勝 ※2連覇
- ・少年男子67kg級 佐藤 匡記(東京都) 3位

◆アーチェリー

- ・少年女子個人 渡邊 麻央(静岡県) 優勝
- ・少年女子個人 高見 愛佳(長崎県) 3位

◆水泳/飛込

- ・少年男子飛板飛込 伊藤 洸輝(神奈川県) 優勝

◆ボート

- ・少年男子シングルスカル 青木 洋樹(東京都) 2位

◆ライフル射撃

- ・少年女子ビームライフル 井浦 一希(福岡県) 2位
- ・少年男子エアライフル 清水 彰人(徳島都) 3位

◆卓球

- ・少年女子(団体) 長崎 美袖(神奈川県) 3位

【卓球】

2017女子ワールドカップ

2017女子ワールドカップが10月27日から29日まで開催され、前回大会で日本人として初優勝を飾った平野さんが前回王者として出場しました。

平野さんは、1回戦から順当に勝ち進みましたが、準決勝で劉詩雯(中国)に破れ、3位決定戦へと回りました。3位決定戦では鄭怡静(チャイニーズタイペイ)に破れ、惜しくも4位とメダルを獲ることは出来ませんでした。

他国の選手が、平野対策をする中での大会となり、苦戦を強いられましたが、その中でもよく集中し戦い抜きました。苦しい中でも勝てるように、もう一度、挑戦者という気持ちで仕切り直し、腕を磨いて欲しいです。

【ライフル射撃】

全日本選抜ライフル射撃競技大会

全日本選抜ライフル射撃競技大会が10月28日、29日に開催されました。この大会は、ランキング及び段取得上位者のみに出場権が与えられる全日本選手権に次ぐ大会で、清水君、大塩君、上田さん、井浦さんの4名が出場しました。

エアライフル立射60発男子に出場した清水君が、本選(予選)で627.7点と3位で、8名で争う決勝に進出。決勝では4位と大健闘しました。本選での627.7点はナショナルチーム基準点をクリアし、50発までの得点が日本新記録を越すペースで自己ベストを4点上回る高得点でした。この得点はオリンピックやナショナルチーム選手の殆どが出場する中で、価値のある結果です。

福井国体リハーサル大会

10月20日から22日に開催された福井国体リハーサル大会のビームライフル種目で清水君が、本選の636.0点、決勝の253.7点と二つの日本新記録を樹立しました。

—清水君のコメント—

1度も優勝したことの無い種目で、最後の試合だったのでいつもよりシビアに調整をした。

試合当日は撃つことだけに集中しただけで点数は気にしなかった。試合が終わった後に日本新記録と聞いたときは嬉しかった。(※原文ママ)



【優勝した清水君】

【日本橋シテイドレッシング meetsオリンピックコンサート】

東京2020オリンピック競技大会1000日前特別企画として、JOCが主催した「日本橋シテイドレッシング meets オリンピックコンサート」が10月28日に開催され、アカデミー生も出演しました。

「オリンピックコンサート」は、オリンピック精神を多くの方々に伝えることを目的として毎年開催されており、今回はその特別編として東京2020大会に向けたシテイドレッシングが施されている日本橋が舞台となりました。

コンサートの中で榊君、脇田さん、木原さんがタレントで水泳(競泳)のオリンピックメダリストの宮下純一さんと一緒に登壇し、競技やアスリートヴィレッジでの生活などについてのインタビューを受けました。

また、オーケストラの演奏で「オリンピック賛歌」などが流れる中、オリンピックでの日本選手の映像が映しだされ、参加したアカデミー生のオリンピックに対する思いが更に深まりました。



—エリートアカデミーのコメント—

◆「オリンピックコンサート・感想」脇田樹魅

中学生の時、二、三度見たオリンピックコンサートに今年は登壇しました。初めての体験で本番前は緊張で体がガチガチでしたが、楽屋で水泳の宮下さんが楽しい話で場を和ませてくれたおかげで緊張なく入場できました。でも、音楽が始まった瞬間、迫力がすごすぎて結局、緊張した状態で登壇しました。舞台上に立った瞬間、観客が見えない程の光を浴びました。いざ、司会の方に話をふられると、私は今までの緊張が嘘だったかのように楽しく質問に答えることが出来ました。そして、ふと私はこの舞台で自分が目標を発言することでより一層、オリンピックへの思いが強くなりました。話してるうちに私は必ず出ると誓いたいと思い、思い切って千日後、必ずオリンピックの開会式で笑ってる姿を見せるので応援してください！と大きな声で言いました。それを聞いてくれた皆さんは大きな拍手をしてくれたので、私は必ず有言実行します。良い経験を、ありがとうございました。

◆「オリンピックコンサートについて」木原美悠

私は、オリンピックコンサートに初めて行かせてもらいました。ステージに上がる前やコンサートが始まる前などは今までにあじわ

ったことのない緊張感がありました。卓球の試合など取材はあまり緊張しないのに、コンサートで400人ぐらいの人達の前で話をするという経験がなかったし、実際ステージに立ってみると、スポットライトが照らされていたので、観客席がすごく真っ暗で余計に緊張してしまいました。けど、すごく楽しかったし、良い経験ができて良かったです。

私が400人ぐらいの人達の前で話したことは、1000日前の東京オリンピックでの意気込みを言ったので、是非その目標を達成して、もっと応援してもらえるようになって、先輩のように世界で活躍したいです。

◆「オリンピックコンサート感想」榊流斗

私は初めてのオリンピックコンサートに、出演者として参加しました。内容はオーケストラの演奏の間に少しだけ舞台上で話をするだけでしたが、今までそのような経験をしたことがなかったので、貴重な時間を頂くことができたことを嬉しく思います。コンサートの演出では、その演奏と一緒に過去のオリンピックの映像や、最近の競技会のハイライトなども流されていて、まだ競技経験の浅い方な自分なのに、少し涙が出そうになった事には、自分でも驚きました。近い将来、自分の活躍した姿が映像によって映し出され、それを見た人の心を動かせるようなアスリートになりたいと思いました。

※原文ママ

【ヴィクトリープログラム】

平成29年度も後半に入り、アカデミー生の資質向上を目指して定期的実施しているヴィクトリープログラム(教育プログラム)もより充実してきています。

キャリア教育では、高校3年生が大学進学に向けた取り組みの中で、面接や小論文等についての指導を受けています。

その中で、JOCエリートアカデミーでの活動を振り返りながら自分の将来を考え、これから歩んで行く道を真剣に考えています。

なお、中学3年生に対するキャリア教育は、年が改まった1月から開始される予定です。



【ビデオカメラを活用しながらの面接練習】

JOCエリートアカデミーだよりは以下のHPでもご覧いただけます。
<http://www.joc.or.jp/training/ntc/eliteacademy>

公益財団法人 日本オリンピック委員会
JOCエリートアカデミー事業



〒115-0056 東京都北区西が丘3-15-1
味の素ナショナルトレーニングセンター
TEL:03(5963)0355/FAX:03(5963)0356